

第2回

学びの多様化学校等のあり方に係る 有識者等会議

名古屋市の不登校施策における学びの多様化学校の位置付けや意義

位置付け

- ・フェーズによる支援という考えは順序性を感じてしまい、大人がジャッジをしている表現にもなっているため、「学校に戻ってほしい」という思いが見えてしまう。また、子どものフェーズは日々変化するものである。子どもの意欲を尊重する、子ども目線（子どもが主語）の表現が良い。提供側の視点で整理しているから分かりにくく、子ども目線で「どこで学びたいか」「どう学びたいか」で区分すれば、子どもにとっても分かりやすいものになる。
- ・学校現場では、不登校施策の種類が多く、どの選択肢がその子どもに合うのか判断が難しい。フェーズは単純な段階ではなく、子ども目線を大切にしながら、現場教員にとっても、支援策の選択肢を分かりやすくするという観点が必要。
- ・学びの多様化学校について、学校としてもしっかりと理解し、子どもの現状に対して、子どもと保護者と話し合い、1番良いものを選択していく中で、学びの多様化学校やその他の子どもが受けられる支援を整理していきたい。また、市立学びの多様化学校では、他の市立学校でも利用できる不登校施策も利用できるようにし、子どもの状況によって最も良い選択ができることが必要。
- ・不登校支援はネットワーク組織が重要。相談する人の立ち位置によって、多種多様な見え方があるが、関係機関が、互いにどの様な子どもを支援しようとしているかを理解し、同じ視点に立つことが必要。

意義

- ・学びの多様化学校における授業のやり方や教材の準備等、教員の研修の意義はとてもある。また、教室で授業も受けられるが、校内の教室以外の居場所のような機能もあれば、自宅でICTで授業も受けられるなど、多機能であった場合、学びの多様化推進の拠点としての機能を持つことができる。
- ・不登校の子が増加しており、多様化学校を1校作っても対応できるのは全体の数%に過ぎない。資材投入（インプット）が大きいので、その全市への波及効果を考える必要がある。
- ・学びの多様化学校は、不登校施策の中核であると同時に、名古屋市における学びの多様化推進の中核として、全ての学校・子どもへの波及効果を考えることで、市立で設置する意義が最大化される。

市立学びの多様化学校の目指す姿

- ・通う子に対して示したい思い・メッセージは何か。「ここなら安心していられる。ここなら行ってみたい」ということや、「ここでいいんだよ」ということがメッセージとして示せるとよい。どのような子を対象にするのか、大いに議論する必要がある。
- ・名古屋に学びの多様化学校ができるなら、堂々と『この学校の卒業生だぞ』と親も子どもも誇れるような、地域に根ざした学校ができると良い。
- ・ある程度、設置場所を想定したうえでの方が、学校に求める機能を具体的にシミュレーションできるため、学びの多様化学校のあり方を議論しやすい。
- ・他都市の学びの多様化学校のように、教育支援センターと物理的に近いところに設置すると、連携もとりやすく、心理的な壁も減ると思う。
- ・通学区域特認校の分校として、学びの多様化学校を設置するというあり方も考えてはどうか。
- ・授業時数を減らせる教育課程特例校という制度もある。学びの多様化学校も本質的には教育課程特例校であるので、名古屋には共通した学びの考えであるナゴヤ学びのコンパスのもと、並走して検討してもいいのでは。

まとめ

- 児童生徒の一人一人の思いや願いに応じた多様な学びを提供し、子ども目線を大切にしながら、子ども・保護者・学校に選択肢を分かりやすく示す。
- そして、多様な背景を持つ児童生徒一人一人のその時々思いや願いを尊重し、きめ細やかな学びの場・学びの機会を提供するため、「市立学びの多様化学校」の設置が必要。
- 「市立学びの多様化学校」は、本市の学びの基本的な考えを示した「ナゴヤ学びのコンパス」を、弾力的で柔軟な教育課程の編成という方法で具現化し、本市の不登校施策及び学びの多様化を推進する重要な役割を担い、その取り組みやエッセンスを全市へ共有する。

本日の議題 「B 学校の基本的方向性」

ご意見をいただく具体的な内容

A 本市の不登校施策における学びの多様化学校の位置付けや意義

- ・ 校内の教室以外の居場所や教育支援センターをはじめとした、本市の各種不登校施策との役割の整理や連携
- ・ 本市における学びの多様化学校設置の意義 等

B 学校の基本的方向性

- ・ 目指す学校の姿（コンセプト）
- ・ 目指す学校の姿の実現に向けた学校づくりの視点（機能） 等

C 学校の枠組み

- ・ 対象となる児童生徒の範囲、対象学年、設置形態、学校規模、転入学時期 等

学校の基本的方向性

目指す学校の姿（コンセプト）

～他都市の事例～

※各都市ウェブサイトより引用

岐阜県岐阜市立草潤中学校（R3開設）

コンセプト

学校らしくない学校

（基本的な考え方）
～ありのままの君を受け入れる新たな形～
○個に応じたケアや学習環境の中で、心身の安定を取り戻しつつ、新たな自分の可能性を見出す

京都府京都市立洛風中学校（H16開設）

コンセプト

新たなかたちの「学び」と「育ち」の場となる学校

（学校教育目標）
仲間とともに学び、心を開いて語り合い、共に遊び 健全な心身を養う
自らの夢を創造し、社会的自立のできる生徒の育成

大阪市立心和中学校（R6開設）

学校目標

自分らしく学びながら 新たな一歩を踏み出す

（教育目標）
学ぶことの喜びを実感し、自らの可能性を広げられるような教育の創造

学校の基本的方向性

目指す学校の姿（コンセプト）

～他都市の事例～

※各都市・学校のウェブサイトより引用

東京都八王子市立高尾山学園（H16開設）

設置目的

不登校の児童・生徒のための体験型学校

（教育目標）

- 気持ちを感じあえる人になろう
- 自分を伸ばせる人になろう
- 自信をもてる人になろう

宮城県白石市立白石南小学校・白石南中学校（R5開設）

コンセプト

今のあなたを認め、受入れる学校
学校らしくない学校

- 「落ち着いて過ごせる居場所」となること
- 「認めてもらうこと」を実感できる体験活動を充実させること
- 「個別最適な学び」で意欲と自信がもてるようになること

を大切にします

大分県玖珠町立くす若草小中学校（R6開設）

目指す学校像

一人ひとりが「主役」として、安心して自分らしく
過ごせる学校

- 【みつける】○一人ひとりが、自分の「好き」や「夢」を見つけ、楽しさを味わいながら、学びに向かっていきます
- 【つながる】○一人ひとりが、多様性を認め合い、つながり合って生きていくことを学んでいきます
- 【ひろげる】○一人ひとりが、楽しみながら挑戦することで、自分の可能性を最大限にひろげていきます

学校の基本的方向性

目指す学校の姿（コンセプト）



「ナゴヤ学びのコンパス」の学びを進める上で大切な視点
(ナゴヤ・スクール・イノベーション事業の実践により分かったこと)

○安心して学べる環境づくり

○一人一人が各自に必要な内容を選択し、自分のペースや方法で学ぶ時間の設定

○教科横断的に自分の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ探究する時間の設定

本市が推進するキャリア教育で大切な視点

- 本物のヒト・モノ・コトとの出会い
- 自分の「好き」や「できる」を大切にする
- 自分らしい生き方を実現する力を身に付ける

一人一人が大切にされ、
安心して自分らしく、
幸せに過ごせる学校
～楽しみながら挑戦し、自分の可能性を広げる～

ききあう まざる
みんなが幸せな学校

きめる ひたる

ききあう

思いや願いを互いに聞き合うことを大切にします。

まざる

多様な人とまざりながら学び合うことを大切にします。

きめる

自分で決めて学習などに取り組むことを大切にします。

ひたる

学びや活動にじっくりとひたることを大切にします。

あんしん

学校の基本的方向性

目指す学校の姿の実現に向けた学校づくりの視点（機能）

岐阜県岐阜市立草潤中学校（R3開設）

※文部科学省、草潤中学校ウェブサイト等より引用

まったく新しい学校の基本的な考え方（R3学校案内、R6文部科学省「学びの多様化学校」手引より）

①セルフコントロール

心と体のバランスを整え、自立を目指しましょう。
（新設教科「ウォームアップ・クールダウン」）

②EdTech

ICTを活用した、一人ひとりに合った学びを進めましょう。
（タブレットや様々な教材を活用した個別学習等の支援）

③セルフデザイン

自分の興味で教科を選択し、自分の得意を見つけましょう。
（新設教科「セルフデザイン」）

④ソーシャルスキル

体験的な学習を通して、人とのつながりを感じましょう。
（地域人材を活用した学校行事や「産学ブース」等で他者との関わりやコミュニケーション能力の育成）

⑤Online学習

個人用のタブレットで、居心地の良い場所で学びましょう。
（生徒自身で学習内容や学習場所を選択できるなど、個別最適化を図る学び）

学校の基本的方向性

目指す学校の姿の実現に向けた学校づくりの視点（機能）

京都府京都市立洛風中学校（H16開設）

※京都市ウェブサイト等より引用

洛風中学校の特色（R6学校教育目標より）

- ①教科等の新設や統合をはじめとする柔軟で特色ある教育課程を編成しています。
（教科の新設 「科学の時間」「創造工房」「ヒューマン・タイム」）
- ②基礎的・基本的な知識・技能の習得を大切にしたり、少人数の集団での授業を行います。個別の学習教材を併用するなど、一人一人の段階に応じたきめ細かな補充的な学習を工夫するとともに、主体的・対話的な学びの実現を意識した授業の工夫を心がけます。
- ③民間団体や大学などと連携した体験活動や、京都の特性を活かした芸術や文化に触れる機会を大切にしたり、多様な創造的活動を実施します。
- ④スクールカウンセラーを中心とする充実した教育相談体制、総合育成支援員や学生ボランティアの配備など、一人一人の子どもの立場に立った心のケアを実践します。
- ⑤一人一人の子どもたちが安心して過ごせる「居場所」をつくりだすために、お互いの「困りごと」を理解しあえる関係（つながり）を大切にできる「枠組み」づくりや個々の生徒に応じた指導対応のあり方を工夫します。

学校の基本的方向性

目指す学校の姿の実現に向けた学校づくりの視点（機能）

大阪府大阪市立心和中学校（R6開設）

※心和中学校ウェブサイト等より引用

新たな学びの場（R6転入案内より）

学習スタイルの選択

- ・オンライン学習やデジタルドリル等を活用し、個別最適な学習の場を学校・家庭間で選択

総合の時間を活用した「Self-Quest（セルフクエスト）※」

- ・自主的に課題に取り組み、一人ひとりの特性に応じて学びを深化

※学び直しや力を伸ばしたいことに取り組む時間

多様な人々との協働

- ・夜間部生徒と共に学ぶ場や、大学・地域等との連携による様々な学習

学校の基本的方向性

目指す学校の姿の実現に向けた学校づくりの視点（機能）

東京都八王子市立高尾山学園（H16開設）

※文部科学省、八王子市ウェブサイト等より引用

特色（八王子市のウェブサイト、R6文部科学省「学びの多様化学校」手引より）

- ①すべての教育活動を通して、人とのかかわりを大切にし、豊かな心をはぐくむとともに、温かな人間関係づくりを目指しています。
- ②児童・生徒の興味・関心等に応じ、小・中学校期に適した「集団活動」や「ものづくり」を通して、それぞれの技術や能力を高め、豊かな感性をはぐくんでいます。（総合的な学習において、「講座学習」として教科にとられない個々の関心・意欲に応じた体験的な授業内容（スポーツ系・文化系・ものづくり系等）を設定）
- ③「読む・書く・計算する」など、基礎学力の向上に努めています。平成26年4月には中学部にきよたき教室（特別支援教室）を設置して基礎学力の定着を図っています。
- ④社会生活を営むために必要と思われる能力の向上を目指し、各学年に応じた校外体験学習や体験講座などの多様な体験的な学習を充実させています。（「学園四季祭」として、社会体験・自然体験・生活体験を中心とした校外を含めた体験学習を年4回実施する他、地域交流学習や職業体験などを実施。）
- ⑤教員、心理相談員、スクールカウンセラー、プレイルーム指導員、講師、高尾山学園指導補助員等が積極的に連携し、児童・生徒や保護者との教育相談機能の充実を図っています。※SSP（ソーシャルスキルアップトレーニング）も実施
- ⑥保護者の不安や悩みなどを解消するために、保護者との連携を大切にし、学校と保護者及び保護者相互の関係づくりに努めています。

学校の基本的方向性

目指す学校の姿の実現に向けた学校づくりの視点（機能）

宮城県白石市立白石南小学校・白石南中学校（白石きぼう学園）（R5開設）

※白石きぼう学園のウェブサイトより引用

白石きぼう学園の他校とは違う特別な学び

「自分のペース」を最大限尊重

- ・登校時刻 9時20分、下校時刻（小）2時50分、（中）2時55分
- ・午前：3時間授業、午後：2時間授業（週25時間授業）
- ・別室や図書ブースなどで授業中のクールダウンもOK

「個別な学び」で基礎学力の保障

■白石タイムの実施

- ・新設教科。週4時間設定。※小学校2年生以上
- ・一人ひとりの状況に合わせた学習の時間。「学び直し」「苦手内容」に対応

学校内外での豊かな体験活動の機会を確保

■「夢スタジオ」

- ・児童生徒の興味・関心に基づく探究活動（総合的な学習の時間）
- ・自分のテーマにじっくり取り組み得意を伸ばす

■人との関わりを重視した活動の導入

- ・「探究の対話（p4c）」の導入
- ・食を主とした地域との交流による活動の実施

■校外体験学習の設定

- ・児童生徒自らが計画を立て実施する体験活動
- ・地域や企業、協力団体等の力を導入した体験活動

学校の基本的方向性

目指す学校の姿の実現に向けた学校づくりの視点（機能）

大分県玖珠町立学びの多様化学校（R6開設）

※玖珠町立学びの多様化学校ウェブサイト等より引用

学校概要

ゆるやかな通学時間、しなやかな学習スタイル

- ・登校時間は9:30
- ・自習室や図書室など好きな場所で学習が可。
- ・オンラインへの切り替えや途中登下校も可。

個別の学びで自分のペースで学べる

- ・教科の学びは学習進度に合わせて、自分のペースでじっくり学ぶことができます。
- ・個別指導を充実させ、一人一人の状況に合わせた「学び直し」を行います。

豊かな探究活動で好きを深める

- ・得意や興味関心に関し、自分のプロジェクトとして、じっくり取り組み得意を伸ばします。
- ・チームで世界で起こっている出来事（身近なことから世界のことまで）を学ぶ探究活動を行います。

みんなでつくる学校生活

- ・3学年1学級の異年齢学級でともに学ぶ
- ・学校行事や部活動は子どもの興味・関心に応じて、子どもたち自ら企画・実行をします。
- ・服装は自由。校則も子どもたち同士で話し合い、必要なルールを考えます。

学校の基本的方向性

目指す学校の姿の実現に向けた学校づくりの視点（機能）

思いや願いを互いに聞き合うことを大切にします。

- 対話を通じて、子どもの自分理解・他者理解を促進
- 大人が子どもと対話し、一人ひとりの思いや願いを尊重

多様な人とまざりながら学び合うことを大切にします。

- 地域、民間団体、大学などと連携した体験活動・キャリア教育
- 異学年交流の充実

自分で決めて学習などに取り組むことを大切にします。

- 教科の学びは一人ひとりの学習進度に合わせて、自分のペースで学ぶ
- 一人ひとり状況に合わせた学び直し・学びの深化
- 学校行事や部活動は、子どもの興味・関心に応じて子ども自らが企画・実行

学びや活動にじっくりとひたることを大切にします。

- 自分の興味・関心に基づく探究活動

安心して学べる環境をつくれます。

- 子どものペースを尊重し、安心して学べる「時間、場所、方法」
- 生き方や進路の不安を受け止めてもらえる、安心できる居場所

あんしん

学校の基本的方向性

目指す学校の姿の実現に向けた学校づくりの視点（機能）

あんしん

安心して学べる環境をつくります。

- 子どものペースを尊重し、安心して学べる「時間」「場所」「方法」
- 生き方や進路の不安を受け止めてもらえる、安心できる居場所

<取組みの具体例>

- ゆとりある登校時間と下校時間
- 総授業時間数の減少
- オンライン授業・教育用メタバースの活用
- 自習室や図書室など好きな場所で学習ができる
- スクールカウンセラーやキャリアナビゲーター等と連携した相談の時間

学校の基本的方向性

目指す学校の姿の実現に向けた学校づくりの視点（機能）

ききあう

思いや願いを互いに聞き合うことを大切にします。

- 対話を通じて、子どもの自分理解・他者理解を促進
- 大人が子どもと対話し、一人ひとりの思いや願いを尊重

< 取組みの具体例 >

- 「対話」の時間の設定
- 校則も子どもたち同士で話し合い、必要なルールを考える
- 社会情動的スキルの育成

学校の基本的方向性

目指す学校の姿の実現に向けた学校づくりの視点（機能）

まざる

多様な人とまざりながら学び合うことを大切にします。

- 地域、民間団体、大学などと連携した**体験活動・キャリア教育**
- 異学年交流**の充実

< 取組みの具体例 >

- 仲間との信頼関係や達成感を得るための、グループワーク中心の体験的な活動
- 実社会で活躍する本物のヒト・モノ・コトとの出会い等（キャリアタイム）
- 授業や行事の異学年交流

学校の基本的方向性

目指す学校の姿の実現に向けた学校づくりの視点（機能）

きめる

自分で決めて学習などに取り組むことを大切にします。

- 教科の学びは一人ひとりの学習進度に合わせて、自分のペースで学ぶ
- 一人ひとり状況に合わせた学び直し・学びの深化
- 学校行事や部活動は、子どもの興味・関心に応じて子どもたち自らが企画・実行

< 取組みの具体例 >

- 単元内自由進度学習
- ICT機器を活用した個別学習等の支援
- 一人ひとりの状況に合わせた学習の時間（学び直し・学びの深化）
- 生徒が必要と感じたときに教職員と話し合いながらつくる学校行事・部活動

学校の基本的方向性

目指す学校の姿の実現に向けた学校づくりの視点（機能）

ひたる

学びや活動にじっくりとひたることを大切にします。

- 自分の興味・関心に基づく **探究活動**

< 取組みの具体例 >

- プロジェクト型学習（マイ探究を含む）